

まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん



**2023年度 年主題「ともにつむぎだす～希望の中で～」**

**0・1・2歳児 5月主題 「どれどれ」**

**月のねがい**

- ◎神さまに守られ、それぞれのペースで園生活に慣れていく。
- ◎安心できる大人のそばに、ありのままにいられる。
- ◎祈りや賛美が気持ちよくうれしい時になる。
- ◎自然の音や色に気付いて触れていく。

**3・4・5歳児 5月主題 「動き出す」**

**月のねがい**

- ◎日常生活の中で保育者や友だちと賛美し祈り、神さまを身近に感じる。
- ◎新しい環境や関わりに安心し、いろいろなことをやってみる。
- ◎やってみたい遊びに自分から動きだし心に向ける中で、友だちや保育者と共に過ごすことを喜ぶ。



**それぞれ寄り添って…**

新しい友だちが加わった4月。新入園児や進級してちよっぴり不安な在園児からも泣き声が聞こえていました。「はじめまして」の場所や人から「よろしくね」と迎えられて、ようやく笑顔も見られるようになってきました。その中で、新入園児でも慣らし保育が始まる期間が違ったお友だちのエピソードを紹介したいと思います。

4月はじめから慣らし保育がスタートしたE君。その一週間後からスタートしたS君。どちらも慣れない環境の中、不安でたくさん涙がありました。保育者が弾くピアノの横で泣いているS君の背中に手を回して、「大丈夫だよ」と諭すように顔を覗くE君の姿がありました。E君もまだまだ不安なはずなのに、一週間だけ先輩として、友だちに寄り添っている姿に心が温かくなりました。

年長児は、新しい小さいクラスの友だちに優しく声を掛けています。中には、嫌がるほど？にお世話に熱心な先輩もいるようです。子どもたちの世界も、新しい子ども社会が動き始めているようです！

こいのぼりが元気に泳いでいる園庭では、大好きなダンゴムシなどの小さな虫たちも遊びに加わってくれています。気持ちいい風を受けて泳いでいるこいのぼりに、「あっ！」と指差す0・1歳児。風を受けずに垂れていると、「寝てるね！」と2歳児。泳いでいる姿を一緒に真似する3歳児。吹き流しを「あれね、おじいちゃんなんだよ！」「えっ？、吹き流しってなんだよ！」と教えてくれる4・5歳児。

5月もそれぞれの発見や気づき、つぶやきに寄り添い耳を傾けながら、子どものありのままの姿を楽しみたいと思います。そしてこの欄の中で可愛いつぶやきの特集もしていきたいと思います(^)/



伊豆元

**今月の聖句 「新しい歌を主に向かって歌え。全地よ、主に向かって歌え。」**

詩篇96:1

私たちの生活の中には、ありとあらゆるところに音楽が存在しています。スマホの目覚ましタイマーで好きな音楽を流す人もいます。食事中にテレビをつけると必ず何らかの音楽が流れます。仕事中BGMを流して集中力を高める。寝床でも軽音楽を聴きながら眠りに入る場合もあるでしょう。そのように私たちは音楽に囲まれて生きています。

音楽は私たちの身体に影響を与えます。音楽のリズムに合わせて、自然と身体が動き出します。また、身体だけではなく、音楽は心にも大きな影響を与えます。心地よい音楽を聴いていると心が落ち着く、いらいらしているときでも好きな音楽を聴いたり、歌ったりするとリラックスできることもあります。さらに、音楽は社会性を生み出します。一緒に歌う時には声を合わせ、楽器を奏する時もタイミングを計ります。このように音楽は人間に様々な影響を与えるものですが、それを利用して理想的な空間を作り上げることも可能です。「マスキング効果」と呼ばれるものです。

聖書の詩篇という書物は、人々が様々な局面で作り上げた歌を集めたものです。詩篇96篇の歌は、イスラエルの民が国を再建する時に、民が讃美したものでした。心身を鼓舞し、民の中に社会的調和を生み、理想的な空間を作り上げるマスキング効果をもたらしたのです。こども園でも子どもたちが元気に歌を歌います。そこにも同じような効果があるのです。「新しい歌を主に向かって歌え。全地よ、主に向かって歌え。」

協力牧師 池田基宣



**あそびはまなび**

**「うんちが出たよ〜！」**

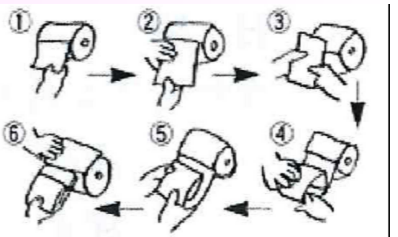
ある日、トイレから「うんちが出たよ〜！」と、4歳児のAくんの大きな声がありました。Aくんは排便があったことを知らせ、後始末を頼みたかったようでした。気付いた保育者が、「お尻拭いたの？」と訪ねると、「まだだよ！（拭いてね）」と言いながら排便の後始末をしてもらっていました。

さて、排泄の自立は、何歳になったら出来るのでしょうか。子どもたちを見ていると、やはり個人差はあるものの、初めのうちは大人の力をかりてしてもらい、3、4歳になってきたら排便の後始末を親（大人）から教えてもらい、自分で出来るようになるものようです。

Aくんのお母さんにお家での様子を聞いてみたところ、いつも排便をしたら家中に聞こえるくらいの大きな声でお母さんをお呼び、拭いてもらうとのことでした。ある時、「自分で拭く練習をしよう！」とトイレで教えながら見ていたところ、ペーパーを手に取り、お尻を拭いて「何回拭くの？」と聞いてきたきたので、「紙にうんちが付いていなかったらいいよ」と教えると、1回拭いて、2回拭いて、3回・・・、便器にペーパーがあふれそうになりました。



「紙がなくなるよ！」と言って、今度はペーパーのたたみ方も一緒に教えていったとのことでした。なかなか簡単にはいかないものですが、何回かしてやっ



いくうちに自立に繋がっていくのでしょうか。心地よい生活を過ごしていくためには、子どもたちの発達段階に合わせて、タイミングを見計らい生活に必要なしつけを丁寧に教えていくことが大切になってきます。保護者の方も仕事や家事に追われてお忙しいこととは思いますが、ここはと言う時には子どもの様子をじっくり見て、じっくり付き合い、丁寧に教えていただけたいと思います。はじめに時間を充分取ることで、子どもたちの自立に繋がっていくことと思います。

保護者の方々にも、子育てを通していろいろなエピソードが生まれてきているのではないのでしょうか。子育ての物語は素晴らしい宝物です。お迎えの時やコドモンでも、ご家庭のエピソードを教えてください。心からお待ちしています。

園長

枝っぱい芽吹いた新緑の間から、優しい木漏れ日が園庭に注いでいます。センダンの薄紫の花が雪のように舞い散り、木々の薫りが園庭を包んでいます。可憐な花々が、美しい彩りを添えて微笑んでいるようです。肌寒い朝と夏のような日中との体温調整が難しい季節でもあります。

新年度を迎えて、あつという間に三週間が過ぎました。玄関での泣き声もずいぶん少なくなり、少しずつ自分の居場所を見つけ始めた子どもたち。周囲の様子を観察しつつ、一日の流れや約束事を理解し始めています。周囲の子どもたちにも関心が向いてくるという高まってきています。いつも仲良く遊んで欲しいと大人は願いますが、様々な心の葛藤や交流を経て、互いを認め合う関係になっていくのを見守ることも大切ですね。何よりも保護者の皆さんが、お子さんのありのままをしっかりと受け止めてくださる安全基地であることです。「泣いてもいいんだよ！」「いっぱいあそんでおいで！」それが見えない根を支える大地なのです。

幼児期の教育・保育は、自発的で主体的な活動である「遊び」から得た様々な経験を通過して、「生きる力の基礎を培う」ことを目的としています。夢中になって遊ぶ中で友だちとのトラブルや葛藤を体験し、挫折感や成功感を味わいます。遊びを考え、工夫し、試行し、協力し合います。自然溢れる空間、ゆったり流れる時間、そして感動を共感できる友だち、都市部では少なくないつてしまったこの三週間こそ遊びの大切な環境といえるでしょう。「遊び」こそがこの時期の「学び」なのです。一人ひとりの子どもたちの健全な成長を願うならば、質の高い「遊び」を担保しなければなりません。保育の中の「遊び」とは、①自分からすること（自発性）②満足するまですること（自己完結性）③楽しいと感じる喜び（自己報酬性）に定義されるようです。しかし、これだけでは、一日中スマホゲームに没頭することも当てはまってしまうので、他の要素も必要です。それが大人の援助です。子どもたちの遊びは、主体的であるが故に、パターン化し停滞しがちです。そこで新しい風を吹き込み、より面白さが増すプロセスが重要になってきます。保育者の最大の存在意義がここにあるわけですね。遊びは、「休み時間」の遊びではなく、保育の中核であり、その質を高めることが子どもの発達に大きく関わるといえることを常に覚えてながら精進していきたいと思えます。

子どもによつては、そろそろ疲れが始める頃です。連休を家族で楽しめながら、どうぞ十分な休養もお願ひしたいと思えます。コロナもまだまだ注意が必要ですが、梅雨時を元気に乗り越えるためにも、毎日の変化に感じた対応や食事・睡眠に留意し、保護者の皆様のご協力をいただきながら楽しい園生活を支えていきたいと思います。

学園長